

NetBackup™ リリースノート

リリース 10.1

マニュアルバージョン 1

VERITAS™

NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2022-10-21

法的通知と登録商標

Copyright © 2022 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 10.1 について	8
	NetBackup 10.1 のリリースについて	8
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について	10
	NetBackup 10.1 の新機能、変更点、拡張機能	10
	Veritas 用語の変更点	12
	マルウェア検出の拡張機能	13
	NetBackup 10.1 の RESTful API	14
	NetBackup Web UI でサポートされる追加のポリシー形式	16
	NetBackup Web UI のアクティビティモニターの改善点	16
	FIPS サポートの機能強化	17
	NetBackup 10.1 のサポートの追加および変更点	17
	グローバルセキュリティの TLS セッション再開機能について	18
	ユニバーサル共有のためのサポートの更新	18
	クラウドバックアップのためのインスタントアクセスのサポートの更新	19
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	19
	NetBackup のプライマリサーバーおよびメディアサーバーと同じバージョンの NetBackup Snapshot Manager を実行	20
	NetBackup 10.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する	20
	ゾーンからリージョンへの Google Cloud Platform (GCP) 構成の移行	21
	新しい PaaS データベースのサポート	21
	クラスタ環境でのクラウド変更不可 (WORM) ストレージのサポート	22
	MSDP の S3 インターフェースのサポート	22
	Microsoft Azure Marketplace と AWS Marketplace で入手可能なマルウェアスキャナ	22

MSDP ディスクプールクラウド LSU のクラウドキャッシュサイズの設定	22
クラウドオブジェクトストアの作業負荷サポート	23
NetBackup Snapshot Manager を使用した VMware NAS ストレージのスナップショットとレプリケーション	23
MySQL の拡張機能	23
PostgreSQL の拡張機能	24
NetBackup Web UI で特定のジョブ権限に対してカスタムの RBAC の役割を必要とする作業負荷	25
既存のクレデンシヤルと gMSA クレデンシヤルを使用した Microsoft SQL Server リカバリの Web UI サポート	26
正確なライセンスのサポート	26
NetBackup クライアントで利用可能な XBSA 作業負荷	27
NetBackup OpsCenter と OpsCenter Analytics のリリースなし	27
Replication Director から NetBackup Snapshot Manager Replication への移行	27
NetBackup Web UI での NetBackup Bare Metal Restore (BMR) 操作	27
IRE の制限事項	28
NetBackup 10.1 での特権のないユーザー (サービスユーザー) のアカウントを使用した NetBackup サービスの実行に関する制限事項	28
第 3 章 操作上の注意事項	29
NetBackup 10.1 の操作上の注意事項について	29
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	30
Windows で NetBackup 10.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す	30
ネイティブインストールの要件	30
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	31
HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	31
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	31
[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する	32
資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブの処理を利用できない	32
NetBackup カタログバックアップの子ジョブの詳細にポリシー形式「Sybase」が表示される	33
クラウドスナップショットのレプリケーションジョブが NetBackup Web UI のデフォルトのクラウド管理者に表示されない	33

Web UI アクティビティモニターにある一部の失敗したジョブでポリシー名のリンクが機能しない	34
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	34
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	34
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	35
Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある	35
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	35
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	35
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項	36
CentOS リポジトリミラー URL の更新	36
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする	36
Horizon UI のポリシースケジュールの開始時刻がポリシーで構成されている時間と異なる	36
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない	36
NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサーバーがトークンを再発行しない	37
スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される	37
NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない	37
リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない	38
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される	38
新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する	38
NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない	38
ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる	39
再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない	39
CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される	39
NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない	39
多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する	39

	SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可 されない	40
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	40
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート	40
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	41
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	42
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	42
付録 B	NetBackup のインストール要件	44
	NetBackup のインストール要件について	44
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	45
	NetBackup 10.1 のバイナリサイズ	46
付録 C	NetBackup の互換性の要件	49
	NetBackup のバージョン間の互換性について	49
	NetBackup の互換性リストと情報について	50
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	50
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	52
	NetBackup の関連マニュアルについて	52

NetBackup 10.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 10.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 10.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 10.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.42 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の

最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 10.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.8 の「[NetBackup 10.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.50 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 10.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 10.1 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「Veritas 用語の変更点」
- 「マルウェア検出の拡張機能」
- 「NetBackup 10.1 の RESTful API」
- 「NetBackup Web UI でサポートされる追加のポリシー形式」
- 「NetBackup Web UI のアクティビティモニターの改善点」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 10.1 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

- 「FIPS サポートの機能強化」
- 「グローバルセキュリティの TLS セッション再開機能について」

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.1 のサポートの追加および変更点」
- 「ユニバーサル共有のためのサポートの更新」
- 「クラウドバックアップのためのインスタントアクセスのサポートの更新」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「NetBackup のプライマリサーバーおよびメディアサーバーと同じバージョンの NetBackup Snapshot Manager を実行」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」
- 「ゾーンからリージョンへの Google Cloud Platform (GCP) 構成の移行」
- 「新しい PaaS データベースのサポート」
- 「クラスタ環境でのクラウド変更不可 (WORM) ストレージのサポート」

- 「MSDP の S3 インターフェースのサポート」
- 「Microsoft Azure Marketplace と AWS Marketplace で入手可能なマルウェアスキャン」
- 「MSDP ディスクプールクラウド LSU のクラウドキャッシュサイズの設定」
- 「クラウドオブジェクトストアの作業負荷サポート」

仮想化の変更点と拡張機能

- 「NetBackup Snapshot Manager を使用した VMware NAS ストレージのスナップショットとレプリケーション」

作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「MySQL の拡張機能」
- 「PostgreSQL の拡張機能」
- 「NetBackup Web UI で特定のジョブ権限に対してカスタムの RBAC の役割を必要とする作業負荷」
- 「既存のクレデンシヤルと gMSA クレデンシヤルを使用した Microsoft SQL Server リカバリの Web UI サポート」
- 「正確なライセンスのサポート」
- 「NetBackup クライアントで利用可能な XBSA 作業負荷」

その他の通知事項

- 「NetBackup OpsCenter と OpsCenter Analytics のリリースなし」
- 「Replication Director から NetBackup Snapshot Manager Replication への移行」
- 「NetBackup Web UI での NetBackup Bare Metal Restore (BMR) 操作」
- 「IRE の制限事項」
- 「NetBackup 10.1 での特権のないユーザー (サービスユーザー) のアカウントを使用した NetBackup サービスの実行に関する制限事項」

Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

メモ: Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

マルウェア検出の拡張機能

マルウェア検出とリカバリに関する **Web UI** の拡張機能は次のとおりです。

- **Standard** ポリシー形式と **MS-Windows** ポリシー形式で選択したデータと時間範囲の別のバックアップイメージから、感染したファイルのクリーンコピーをリカバリします (利用可能な場合)。
- 新しい **RBAC** 権限 (感染したイメージからのリカバリの許可) により、感染したイメージからファイルをリストアできます。この権限がない場合、クリーンイメージまたはスキャンされていないイメージからのみファイルをリストアできます。
- ポリシー名、ポリシー形式、スケジュール形式 (バックアップ形式)、クライアント名、バックアップコピー番号、**MSDP** ディスクプール名、マルウェアスキャン状態、日時範囲に基づいてバックアップイメージを検索およびスキャンします。
- 感染ファイルの表示で、ファイルパスの検索がサポートされるようになりました。感染ファイルのリストは **CSV** ファイルとしてエクスポートできます。
- 保留中または進行中の状態にあるスキャンジョブは、**Web UI** からキャンセルできます。

マルウェア検出のサポートが **VMware VM** のバックアップイメージに拡張されています。

- 管理者ユーザーに対するオンデマンドスキャンのサポート (マルウェア検出で **VMware** 資産 (**VM**) を選択してマルウェアスキャンをトリガ)。
- **VMware** 管理者に対するオンデマンドスキャンのサポート (**Web UI** で [作業負荷 (**Workloads**)]、[**VMware**] の順に選択)。
- マルウェアに感染したリカバリポイントからのリカバリは、デフォルトでは無効になっています。リカバリするには、[マルウェアに感染したリカバリポイントの選択を許可 (**Allow the selection of recovery points that are malware-affected**)] を有効にする必要があります。
- クリーンなリカバリポイントからの単一または一括インスタント **VM** ロールバック。

このリリースでは、次の機能と拡張機能も利用可能です。

- Linux スキャンホストでの root 以外のユーザーのサポート。
- 30 日を経過したスキャンジョブの自動クリーンアップは、クリーン、失敗、キャンセルの状態です。この機能は設定可能です。
- NetBackup Malware Scanner バージョン 2.0 には、スキャンパフォーマンスに関連する機能強化と、マルチスレッドスキャンのサポートが含まれています。

メモ: NetBackup 10.0 で利用可能な NetBackup Malware Scanner バージョン 1.0 をお使いの場合、Veritas では NetBackup Malware Scanner バージョン 2.0 に更新することをお勧めしています。

NetBackup 10.1 の RESTful API

NetBackup 10.1 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

API マニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:
NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。
[\[ホーム \(HOME\)\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 10.1](#)
[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#) の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。
- プライマリサーバーの場合:
API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。
`https://<primary_server>/api-docs/index.html`
API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

注意: Veritas は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

新しい API

NetBackup 10.1 には、次の機能強化された API が新たに導入されました。

- クラウドオブジェクトストア:
クラウドオブジェクトの保護をサポートするクラウドプロバイダを一覧表示します。
- プロキシサーバー:
インターネットプロキシサーバーの詳細を作成して更新します。
- 一時停止中のクライアント:
クライアント保護の一時停止または一時停止解除を実行します。
- ディスクアレイホスト:
ディスクアレイホストのクレデンシャルを作成、更新、および削除します。
- DBPaaS:
指定したクレデンシャルを DBPaaS 資産に関連付けます。
- NDMP:
NDMP のファイルやフォルダを個別にリカバリします。
- クラウドの作業負荷:
インスタントアクセスマウントを作成および削除します。
- VMware:
 - VMware Cloud vApp 情報を問い合わせます。
 - マルウェアスキャンのマウントを作成および削除します。
- カタログイメージ:
 - ロールバックイメージの内容を表示します。
 - SLP に関連付けられたイメージを一覧表示します。
- スナップショットプロバイダ:
 - 領域内のセキュリティグループを一覧表示します。
 - オンプレミスのストレージアレイスナップショットのレプリケーションについて、サポートされているレプリケーション先を取得します。
- Bare Metal Restore (BMR):
 - BMR 構成に接続されている Windows ドライバパッケージを一覧表示します。
 - 構成から構成 ID をマッピングします。
 - zfs ファイルシステムとボリュームの属性を更新します。
 - 構成内の物理ボリュームを作成および削除します。
 - 利用可能なディスクを一覧表示します。

- ライセンスを一覧表示および更新します。
- ボリュームグループのプロパティを更新します。

バージョン化された API

これらは、最新の変更のために NetBackup 10.1 でバージョン化された API です。適切なバージョンを指定することで、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。例や詳細について詳しくは、SORT の API リファレンスにある、バージョン管理に関するセクションを参照してください。

- トークンリストの取得:
GET /security/securitytokens は、ページネーション属性とともに getTokenDataList からオブジェクトのリストを返すように、オブジェクト getTokenResponse のプロパティを変更しました。
- 有効なトークンリストの取得:
GET /security/securitytokens/state/valid は、ページネーション属性とともに getTokenDataList からオブジェクトのリストを返すように、オブジェクト getTokenResponse のプロパティを変更しました。
- CA の移行の開始:
POST /security/certificate-authorities/initiate-migration は、キーサイズ 16384 の CA 生成のサポートを削除しました。キーサイズ 16384 のアクティブな CA がすでにある場合は、既存の CA 移行メカニズムを使用して、サポート対象の値にダウングレードしてください。

NetBackup Web UI でサポートされる追加のポリシー形式

NetBackup Web UI では、次のポリシー形式の構成がサポートされるようになりました。

- BigData
- DB2
- MS-Exchange-Server
- NDMP
- Informix
- SAP

NetBackup Web UI のアクティビティ 모니터の改善点

このリリースでは、アクティビティモニターに対して次の改善が行われました。

- ブラウザウィンドウ全体を使用してより多くのジョブを表示できるように、アクティビティモニターのビューを最大化する機能。

- 新しいウィンドウでジョブの詳細を表示する機能。この操作により、異なるジョブの詳細をより簡単に比較できます。
- ジョブの詳細では、「試行 (Attempts)」フィールドの先頭に最新の試行が表示されます。以前はジョブの詳細の先頭に試行 1 が表示されていました。たとえば、試行 1 (午前 6 時)、試行 2 (午前 8 時)、試行 3 (午前 10 時) の 3 回にわたってジョブが試行されたとします。最新の試行は試行 3 (午前 10 時) であり、これがジョブの詳細の先頭に表示されます。

FIPS サポートの機能強化

NetBackup インストール時の FIPS モードの有効化

NetBackup 10.1 以降、インストール時に FIPS モードを有効にできます。詳しくは、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

FIPS 準拠モードでサポートされる作業負荷

NetBackup 10.1 以降、FIPS 準拠モードでは、既存の作業負荷に加えて次の作業負荷がサポートされます。

- Cassandra
- Sybase
- Informix
- MS-Exchange
- Enterprise Vault
- BMR
- ユニバーサル共有
- OpenStack (クラウドベースのソリューション)

FIPS 構成について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

NetBackup 10.1 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

NetBackup 10.1 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- Azure Stack Hub バージョン 2108

- Ubuntu 20.4 ELS の PostgreSQL 14
- Ubuntu 20.4 ELS の PostgreSQL 13
- RedHat Linux Enterprise Server 8 (x86-64) の MongoDB 5.0
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP3 (x86-64) の SAP Oracle 7
- バックアップホストとしての Windows 2022 の VMware (VDDK 7.0.3.2)
- バックアップホストとしての RedHat 8.6 の VMware (VDDK 7.0.3.2)
- Red Hat Open Shift 4.10
- Wasabi S3 オブジェクトロック
- iTernity - クラウド (S3)
- Cloudian S3 - オブジェクトロック
- EMC-ECS S3 - オブジェクトロック
- Scality Ring S3 - オブジェクトロック (コンプライアンスモード)

グローバルセキュリティの TLS セッション再開機能について

NetBackup は TLS (Transport Layer Security) を使用して NetBackup ホスト間の通信を保護します。NetBackup ホスト間の新しい各 TCP 接続は、その接続を介して NetBackup がトラフィックを送信する前に、TLS ハンドシェイクを実行してピア ID を確認する必要があります。

セッション再開機能は、TLS ハンドシェイクを最適化することで、TCP 接続のたびに完全なハンドシェイクが必要としないようにします。セキュリティレベルは、NetBackup が、完全ハンドシェイクが必要になるまでに TLS セッションの再利用を許可する期間を決定します。

セキュリティレベルの間隔は次のように設定できます。

- 現在のセキュリティレベル (10 分、30 分、または 60 分) にデフォルト設定
- カスタム – 1 分から 720 分

この機能は現在 NBCA にのみ適用されます。ECA は今後のリリースでサポートされる予定です。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』の「TLS セッションの再開について」を参照してください。

ユニバーサル共有のためのサポートの更新

NetBackup は、次のプラットフォームとのユニバーサル共有をサポートするようになりました。

- NetBackup Appliance
- Flex Appliance
- Flex Scale
- Flex WORM
- MSDP AKS (Azure Kubernetes Services)/EKS (Amazon Elastic Kubernetes Service) の配備
- BYO (Build-your-own)

クラウドバックアップのためのインスタントアクセスのサポートの更新

NetBackup は、次のポリシーを使用してクラウドバックアップのインスタントアクセスをサポートするようになりました。

- Windows
- Standard
- Universal share
- VMware
- MS-SQL
- Oracle

NetBackup は、次のプラットフォームを使用したクラウドバックアップのインスタントアクセスをサポートするようになりました。

- MSDP AKS (Azure Kubernetes Services)/EKS (Amazon Elastic Kubernetes Service) の配備
- クラウドでの BYO (Build-your-own) (手動で有効化)

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- `bp.kill_all`
- `bpdwn`
- `bpclusterkill`

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

NetBackup のプライマリサーバーおよびメディアサーバーと同じバージョンの NetBackup Snapshot Manager を実行

NetBackup バージョン 10.1 では、NetBackup のプライマリサーバー、メディアサーバー、および Snapshot Manager はすべて同じバージョンを実行する必要があります。

アップグレードする場合は、最初に Snapshot Manager をアップグレードしてから、NetBackup サーバーをバージョン 10.1 にアップグレードします。

NetBackup 10.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 10.1 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 10.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas は次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.9.2 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。

バージョン 2.9.5 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 10.1 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- Amazon Glacier Instant Retrieval (IR)
- iTernity iCAS FS (S3)
- Amazon (S3) - Asia Pacific (Jakarta) 地域
- Google (S3) - Asia South2 (Delhi) 地域
- Google (S3) - Australia-Southeast2 (Melbourne) 地域
- Google (S3) - EU West9 (Paris) 地域
- Google (S3) - EU Southwest1 (Madrid) 地域
- Google (S3) - US East5 (Columbus) 地域
- Google (S3) - US South1 (Dallas) 地域
- Google (S3) - North America Northeast2 (Toronto) 地域
- Wasabi (S3) - EU-West-2 (Paris) 地域
- Wasabi (S3) - AP Southeast 1 (Singapore) 地域
- Wasabi (S3) - AP Southeast 2 (Sydney) 地域
- Wasabi (S3) - EU Central 2 (Frankfurt) 地域

- Wasabi (S3) - CA Central 1 (Toronto) 地域

最新のクラウド構成パッケージについては、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

ゾーンからリージョンへの Google Cloud Platform (GCP) 構成の移行

NetBackup Snapshot Manager 10.1 を使用すると、ゾーンからリージョンに Google Cloud Platform (GCP) 構成を移行できます。この移行により、GCP 構成のセットアップとメンテナンスが向上します。

NetBackup Snapshot Manager 10.1 にアップグレードする前に、『NetBackup Snapshot Manager インストールおよびアップグレードガイド』で、GCP のリージョンの構成への移行に関する詳細を確認してください。

p.20 の「[NetBackup のプライマリサーバーおよびメディアサーバーと同じバージョンの NetBackup Snapshot Manager を実行](#)」を参照してください。

新しい PaaS データベースのサポート

NetBackup 10.1 は、[クラウド (Cloud)] 作業負荷で、次の新しい PaaS (platform-as-a-service) データベースをサポートするようになりました。[アプリケーション (Applications)] タブには RDS 資産が表示され、[PaaS] タブには RDS 以外の資産が表示されます。この 2 つのタブで PaaS 資産を表示、保護、リカバリできます。

- Azure SQL
- Azure SQL 管理対象インスタンス
- Azure PostgreSQL
- Azure MySQL
- Azure MariaDB
- AWS RDS PostgreSQL および MySQL
- AWS Aurora DB PostgreSQL および MySQL
- AWS MariaDB
- AWS DynamoDB
- GCP SQL (PostgreSQL および MySQL)

詳しくは、『NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド』を参照してください。

クラスタ環境でのクラウド変更不可 (WORM) ストレージのサポート

NetBackup は、Azure Kubernetes Service (AKS)、Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS)、NetBackup Flex Scale などのクラスタ環境でのクラウド変更不可ストレージの配備をサポートするようになりました。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

MSDP の S3 インターフェースのサポート

MSDP の S3 インターフェースは S3 API を提供します。MSDP の S3 インターフェースを使用して、MSDP サーバーにデータを格納できます。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

Microsoft Azure Marketplace と AWS Marketplace で入手可能なマルウェアスキャナ

Microsoft Azure Marketplace と AWS Marketplace からマルウェアスキャナをダウンロードできます。AWS 向けと Azure 向けのマルウェアスキャナをインストール、構成、使用方法に関する指示に従ってください。

AWS について詳しくは、以下を参照してください。

[AWS Marketplace](#)

[AWS でのクラウド NetBackup マーケットプレイス配備](#)

Microsoft Azure について詳しくは、以下を参照してください。

[Azure Marketplace:](#)

[Azure クラウドでの NetBackup マーケットプレイス配備](#)

MSDP ディスクプールクラウド LSU のクラウドキャッシュサイズの設定

MSDP ディスクプールを追加する際、ディスクプールクラウド LSU のクラウドキャッシュサイズを設定できます。クラウドキャッシュのディスク容量のサイズを設定するには、[クラウドキャッシュのディスク容量の要求 (Request cloud cache disk space)]機能を使用します。

次の属性値は、[クラウドキャッシュのディスク容量の要求 (Request cloud cache disk space)]の値です。

- UploadCacheGB
- DownloadDataCacheGB
- DownloadMetaCacheGB
- MapCacheGB

これらの値は、メディアサーバーの <MSDP ストレージパス>/etc/puredisk/cloud.json 構成ファイル内にある適切なクラウド LSU セクションに書き込まれます。

クラウドオブジェクトストアの作業負荷サポート

NetBackup は、クラウドオブジェクトストアのバックアップとリストアをサポートするようになりました。NetBackup は、Azure Blob Storage に加え、AWS S3、Google Cloud Storage (GCS)、Hitachi Cloud Platform オブジェクトストアなど、さまざまなタイプの S3 API 互換オブジェクトストアを保護できます。

オブジェクトストアと同じまたは異なるクラウドネットワークに NetBackup 環境を配備できます。詳しくは、『NetBackup Web UI クラウドオブジェクトストア管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup Snapshot Manager を使用した VMware NAS ストレージのスナップショットとレプリケーション

NetBackup は、VMware 仮想マシンを保護するために、VMware ストレージアレイスナップショット向けのハードウェアスナップショットベースのソリューションを導入しています。ハードウェアスナップショットは、VM に影響を与える時間を大幅に短縮します。NetBackup は、ハードウェアスナップショットの期間中のみ VM スナップショットを保持します。

このソリューションは、NetBackup Snapshot Manager を使用してハードウェアスナップショットを実行します。詳しくは、『NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド』を参照してください。

MySQL の拡張機能

NetBackup 10.1 には、MySQL を保護するための最新の機能が含まれています。NetBackup 10.1 は、NetBackup Web UI を使用して MySQL を保護するための次のエンタープライズレベルの機能を提供します。

- NetBackup Web UI との統合:
MySQL 機能は NetBackup Web UI と統合され、Web ブラウザから MySQL リソースを構成、保護、リカバリ、監視する機能を提供します。
- 役割ベースのアクセス制御 (RBAC):
管理者は、ユーザーアクセスを構成し、MySQL 資産管理、クレデンシャルアクセス、作業負荷の保護などの NetBackup タスクを委任できます。
- クレデンシャルの管理:
MySQL クレデンシャルは、指定したクレデンシャルとして NetBackup クレデンシャル管理データベースに追加されます。所有者は、指定したクレデンシャルを他のユーザーまたは管理者と共有し、実際のクレデンシャルを明らかにせずに再利用できます。

- 資産の自動検出:
MySQL インスタンスは自動検出され、NetBackup 資産に追加されます。NetBackup は、リソースの自動検出プロセスを実行し、すべてのデータベースを NetBackup 資産に追加します。スケジュール設定済みの間隔 (構成可能) でリソース検出プロセスが実行されます。このオプションにより、新たに追加されたデータベースが確実に NetBackup 資産に含まれます。
- 即時バックアップ:
バックアップスケジュール以外でアドホックバックアップを実行できます。
- サポートされるバックアップメソッド:
スナップショット (LVM/VSS) と mysqldump がインスタンスのバックアップでサポートされます。データベースは mysqldump メソッドを使用して保護されます。
- 増分バックアップ
増分バックアップ (bin log) は、インスタンスレベルの保護の場合のみサポートされません。
- NetBackup Web UI リカバリウィザードを使用したリストアオプション。
 - インスタンスのリストア。
MySQL インスタンス全体を同じまたは異なる MySQL にリストアできます。
 - データベースのリストア。
MySQL データベース全体を同じまたは異なる MySQL インスタンスにリストアできます。
- NetBackup API。
これらの新機能すべてに NetBackup API を使用することもできます。
詳しくは、『NetBackup Web UI MySQL 管理者ガイド』を参照してください。

PostgreSQL の拡張機能

NetBackup 10.1 には、PostgreSQL を保護するための最新の機能が含まれています。NetBackup 10.1 は、NetBackup Web UI を使用して PostgreSQL を保護するための次のエンタープライズレベルの機能を提供します。

- NetBackup Web UI との統合。
PostgreSQL 機能は NetBackup Web UI と統合され、Web ブラウザから PostgreSQL リソースを構成、保護、リカバリ、監視する機能を提供します。
- 役割ベースのアクセス制御 (RBAC)。
管理者は、ユーザーアクセスを構成し、PostgreSQL 資産管理、クレデンシャルアクセス、作業負荷の保護などの NetBackup タスクを委任できます。
- クレデンシャルの管理。

PostgreSQL クレデンシャルは、指定したクレデンシャルとして NetBackup クレデンシャル管理データベースに追加されます。所有者は、指定したクレデンシャルを他のユーザーまたは管理者と共有し、実際のクレデンシャルを明らかにせずに再利用できます。

- 資産の自動検出。
PostgreSQL インスタンスは自動検出され、NetBackup 資産に追加されます。NetBackup は、リソースの自動検出プロセスを実行し、すべてのデータベースを NetBackup 資産に追加します。スケジュール設定済みの間隔 (構成可能) でリソース検出プロセスが実行されます。このオプションにより、新たに追加されたデータベースが確実に NetBackup 資産に含まれます。
 - 即時バックアップ。
バックアップスケジュール以外でアドホックバックアップを実行できます。
 - サポートされるバックアップ方式。
スナップショット (LVM/VSS) と pg_basebackup がインスタンスのバックアップでサポートされます。データベースは pg_dump 方式を使用して保護されます。
 - 増分バックアップ。
増分バックアップ (WAL) は、インスタンスレベルの保護の場合のみサポートされます。
 - NetBackup Web UI リカバリウィザードを使用したリストアオプション。
 - インスタンスのリストア。
PostgreSQL インスタンス全体を同じまたは異なる PostgreSQL にリストアできます。
 - データベースのリストア。
PostgreSQL データベース全体を同じまたは異なる PostgreSQL インスタンスにリストアできます。
 - NetBackup API。
これらの新機能すべてに NetBackup API を使用することもできます。
- 詳しくは、『NetBackup Web UI PostgreSQL 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup Web UI で特定のジョブ権限に対してカスタムの RBAC の役割を必要とする作業負荷

10.1 リリースでは、NetBackup Web UI の特定の作業負荷に対して個別のジョブアクセスを提供できるようになりました。この機能を使用すると、特定の作業負荷に対するジョブ権限を持つカスタムの RBAC の役割を作成できます。

これらの作業負荷には、対応するデフォルトの RBAC の役割がありません。カスタムの役割を構成するときに、[作業負荷 (Workloads)]カードの権限は、これらの作業負荷には適用されません。以下の作業負荷の種類に対して、ジョブ権限を構成できます。

BackTrack	Hyper-V	NDMP
DataStore	Informix	PureDisk Export
DB2	Lotus Notes	SAP
Enterprise Vault	SharePoint	Standard
Exchange	MS-Windows	Sybase
FlashBackup	NAS Data Protection	Vault
FlashBackup Windows	NBU Catalog	

BigData 作業負荷に対する RBAC ジョブ権限

このリリースでは、Hadoop、HBase、MongoDB 専用のジョブ権限を構成できません。これらの作業負荷のジョブを表示および管理するには、すべての NetBackup ジョブ権限を持つ役割を作成します。([グローバル (Global)]、[NetBackup 管理 (NetBackup management)]、[ジョブ (Jobs)]。)

既存のクレデンシャルと gMSA クレデンシャルを使用した Microsoft SQL Server リカバリの Web UI サポート

NetBackup Web UI で、gMSA クレデンシャルを含む既存のクレデンシャルを使用した SQL Server リカバリがサポートされるようになりました。以前のリリースでは、手動でクレデンシャルを入力する方法しかありませんでした。

- gMSA クレデンシャルに十分なリカバリ権限があることを確認します。次に、[クライアントのローカルで定義されているクレデンシャルを使用 (Use credentials that are defined locally on the client)] オプションを使用して、gMSA クレデンシャルを構成します (このオプションは、[クレデンシャルの管理 (Credential management)] でクレデンシャルを作成するときに利用可能です)。
- gMSA アカウントを使用してログオンするように NetBackup Legacy Network Service と NetBackup Legacy Client Service を構成します。
- NetBackup Web UI でのリカバリ中に、gMSA アカウント用に作成した NetBackup クレデンシャルを選択します。

正確なライセンスのサポート

次の作業負荷は、NetBackup 10.1 で正確なライセンスをサポートします。

- NetBackup for SQLite
- NetBackup for MariaDB
- NetBackup for MySQL

- NetBackup for PostgreSQL

NetBackup クライアントで利用可能な XBSA 作業負荷

次の XBSA 作業負荷は、NetBackup 10.1 の NetBackup クライアントで利用できます。

- NetBackup for SQLite
- NetBackup for MariaDB
- NetBackup for MySQL
- NetBackup for PostgreSQL

NetBackup OpsCenter と OpsCenter Analytics のリリースなし

NetBackup 10.1 以降、NetBackup OpsCenter と OpsCenter Analytics は NetBackup ソフトウェアの一部ではなくなりました。NetBackup IT Analytics (以前の APTARE) は、NetBackup のレポートと分析のためのソリューションです。

Replication Director から NetBackup Snapshot Manager Replication への移行

NetBackup 10.1 以降、管理者は、NetBackup Snapshot Manager for Data Center を使用して、NetBackup がキャプチャする NAS ストレージアレイのスナップショットをレプリケートできます。現在、NAS データ保護ポリシーと VMware ポリシーは、NetBackup Snapshot Manager Replication でサポートされています。ストレージアレイのレプリケーションについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

NAS ストレージの既存の Replication Director ポリシーの移行については、次の技術記事を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/article.100053716.html

NetBackup Web UI での NetBackup Bare Metal Restore (BMR) 操作

NetBackup 10.1 には、NetBackup Web UI の Bare Metal Restore に関する次の機能が含まれています。

- BMR のクライアントおよび構成を表示および管理する。
- クライアントの構成および VM 変換クライアントの構成に対するリストア準備、検出準備、Dissimilar Disk Restore 操作などのリストア前操作を実行する。
- ブートサーバーを表示および管理する。

- 共有リソースツリー、検出済み構成、Windows デバイスドライバパッケージなどのリソースを表示および管理する。
- BMR リストアタスクまたは検出タスクを表示および管理する。

BMR について詳しくは、『NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド』を参照してください。

IRE の制限事項

NetBackup で分離リカバリ環境 (IRE) 機能を使用する場合の制限事項

- IRE のエアギャップでは、許可リストへの IPv6 サブネットまたはアドレスの追加をサポートしていません。
- レプリケーションソースの MSDP サーバーは、NetBackup 10.1 または Flex WORM 17.0 でなければなりません。
- Windows MSDP サーバーはサポートされません。

稼働中のサーバーの環境と IRE に基づく NetBackup の安全な通信に関するサポートマトリックスは次のとおりです。

表 2-1 稼働中のサーバーの環境と IRE に基づく NetBackup の安全な通信

稼働中のサーバーの環境	IRE		
	NBCA	ECA	NBCA と ECA の混合モード
NBCA	サポート対象	サポートされない	サポート対象
ECA	サポートされない	サポート対象	サポート対象
NBCA と ECA の混合モード	サポート対象	サポートされない	サポート対象 (NBCA のみを使用)

NetBackup 10.1 での特権のないユーザー (サービスユーザー) のアカウントを使用した NetBackup サービスの実行に関する制限事項

bpcd および vnetd プロセスが Oracle Admin などのアプリケーションアカウントで実行される場合、そのアカウントをサービスユーザーアカウントに変更しないでください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

NetBackup 10.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 10.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows で NetBackup 10.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[Veritas NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 10.1 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』の mklogdir コマンドを参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm  
rpm -U VRTSspb.x.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、

NetBackup 10.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『[NetBackup Web UI 管理者ガイド](#)』または『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『[NetBackup インストールガイド](#)』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の [NetBackup 互換性リスト](#) を参照してください。

p.50 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の [カタログ (Catalog)] 領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブの処理を利用できない

NetBackup Web UI でジョブを表示および管理する場合は、次の問題に注意してください。

- ジョブは実行されるまで資産 ID を受信しません。つまり、キューへ投入済みのジョブには資産 ID が存在しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、キューへ投入済みのジョブを表示またはキャンセルできません。
この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。
- 資産がまだ検出されていない場合、ジョブは資産 ID を受信しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、その資産のジョブをキャンセルまたは再起動できません。
この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。

例 1 - 資産の権限が制限されている VMware 管理者は、キューに投入済みのジョブをキャンセルできない

VMware vCenter または 1 つ以上の VM に対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。

- このユーザーは、vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブを表示できません。
- 同様に、このユーザーは vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブをキャンセルできません。

例 2 - 資産の権限が制限されている VMware または RHV 管理者は、未検出の資産のジョブをキャンセルまたは再起動できない

VMware vCenter または RHV サーバーに対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。このユーザーには、これらの資産に対する 1 つ以上のジョブの権限がありますが、すべての作業負荷資産に対するジョブの権限はありません。

- 環境に新しい資産が追加されましたが、検出プロセスがまだ実行されていません。
- 既存のインテリジェントグループは、新しい資産を含めるように構成されます。
- バックアップが実行されると、バックアップに新しい資産が含まれます。
- このユーザーは、新しい資産に対するジョブをキャンセルまたは再起動できません。

NetBackup カタログバックアップの子ジョブの詳細にポリシー形式「Sybase」が表示される

NetBackup カタログバックアップの子ジョブの詳細を表示すると、詳細に「NBU-Catalog」ではなく「Sybase」というポリシー形式が表示されます。

クラウドスナップショットのレプリケーションジョブが NetBackup Web UI のデフォルトのクラウド管理者に表示されない

デフォルトのクラウド管理者の役割を持つ NetBackup Web UI ユーザーは、クラウドスナップショットのレプリケーションジョブを表示できません。

回避方法:

クラウド管理者用に追加のカスタム役割を作成します。その役割で、すべての NetBackup ジョブを表示する権限を追加します。

ジョブを表示する権限を持つカスタム役割を作成するには

- 1 カスタムの RBAC の役割を作成します。
- 2 [アクセス権 (Permissions)]カードで、[割り当て (Assign)]をクリックします。
- 3 [グローバル (Global)]タブで[NetBackup の管理 (NetBackup management)]を展開します。

- 4 [ジョブ (Jobs)]を見つけ、[表示 (View)]権限を選択します。役割に必要なその他のジョブ権限を追加することもできます。
- 5 その役割に必要なユーザーを追加します。

Web UI アクティビティモニターにある一部の失敗したジョブでポリシー名のリンクが機能しない

NetBackup Web UI のアクティビティモニターに表示される一部の失敗したジョブについては、[ポリシー名 (Policy name)]リンクが機能しません。これらのジョブについては、ポリシー名をクリックして詳細を表示することはできません。

回避方法:

これらのジョブについての詳細を表示するには、[ポリシー (Policies)]ページに移動して対象のポリシーを見つけます。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 10.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている root ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 10.1 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 10.1 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CentOS リポジトリミラー URL の更新

CentOS リポジトリミラー URL は、mirror.centos.org から vault.centos.org に更新されました。/etc/yum.repos.d/CentOS-* にあるすべての Yum リポジトリファイルで更新する必要があります。

haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551

Horizon UI のポリシースケジュールの開始時刻がポリシーで構成されている時間と異なる

Horizon UI の [ポリシーの詳細 (Policy Details)] ページに表示されるポリシースケジュールの開始時刻は、ポリシーで構成されている時刻と比べて 23 分ずれる場合があります。

この時差は、あるタイムゾーンから別のタイムゾーンへの時刻の変換中に取得された間違ったオフセット値によって起こります。この問題が存在するのは、OpenStack 用に NetBackup で使用される pytz ライブラリコンポーネントです。

ただし、この問題は UI のみに限定されます。バックエンドと API の UTC 時刻は正確です。この問題は、設定したとおりの時間に実行されるスナップショットジョブスケジュールには影響しません。

増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされませんが、これらのディスクはマウントできません。

NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサーバーがトークンを再発行しない

NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup コンフィギュレータにおける NetBackup 証明書のトークンの再発行が機能しません。

回避方法:

この問題を解決するには、プライマリサーバーでトークンの自動再発行の許可を有効にします。NetBackup コンフィギュレータの[トークン (Token)]フィールドに "" と入力する必要があります。この構成では、プライマリサーバーが提供した証明書が NetBackup for OpenStack VM にすでに存在する場合は続行できます。

スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

スナップショットがあるポリシーを削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただしポリシーは削除されないため、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- Error: Invalid state: This policy contains snapshots. Please delete all snapshots and try again.
- Success: Deleted: <policy name>

NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない

NetBackup VM の構成中に NetBackup プライマリサーバー名を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to establish connection with the NetBackup master server.  
Error: HTTPSConnectionPool(host='NBU.master.server', port=443): Max  
retries exceeded with url: /netbackup/security/ping (Caused by  
NewConnectionError('<urllib3.connection.HTTPSConnection object at  
0x7f9e466b0ef0>: Failed to establish a new connection: [Errno -2]  
Name or service not known',))
```

回避方法:

この問題を解決するには、`/etc/hosts` に IP ホスト名マッピングを追加します。

詳しくは、次のサポート記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100045941

リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない

Ceph に格納されている VM ボリュームは、必要に応じてバックアップから正常に除外されます。

リストアによって空の Ceph ボリュームが作成されますが、このボリュームは接続またはフォーマットできません。

リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config_drive を削除するか、必要な値を設定します。

新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する

既存の NetBackup VM にノードを追加するとき、NetBackup の再構成に失敗します。

理由は、以前の MySQL パスワードが機能しておらず、MySQL のルートアクセスがリセットされたためです。

回避方法:

構成済みの NetBackup VM の /root/.my.cnf ファイルを削除し、再構成します。

NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない

NetBackup の再構成後に、既存の NetBackup VM クラスタにさらに 2 つのノードを追加した場合 (「インポートポリシー」が未選択)、データベースは既存の NetBackup VM と同期されません。

2 つの新しいノードを追加する間、node1 のデータベースが 2 つの新しいノードと同期され、新しい 3 ノードの NetBackup VM クラスタで再構成後に既存のポリシーを利用できることが期待されます。

回避方法:

CLI からポリシーのインポートを実行します。

ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる

VM のメタデータ `exclude_boot_disk_from_backup` は `true` に設定されていましたが、リストアされたインスタンスは、データがバックアップおよびリストアされたことを示していません。

再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない

再初期化では、OpenStack との通信に使用されるアップロード済みの OpenStack 証明書は保持されません。

回避方法:

証明書を再度アップロードします。

CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される

CLI でインポート機能を使用すると、スケジューラの信頼が有効から無効に変更されません。

回避方法:

再初期化後に、UI からインポートオプションを使用して NetBackup を構成します。

NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない

NetBackup Appliance を再初期化した後、UI と CLI にノードの情報が表示されません。

回避方法:

NetBackup ノードで `nbosjm-policies` および `nbosjm-cron` サービスを再起動します。

```
systemctl restart nbosjm-policies
```

```
systemctl restart nbosjm-cron
```

多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する

25 を超えるポリシーを同時に実行すると、エラーが発生します。nbosdmapi サービスが応答しません。

スナップショットは `Object is not subscribable`. エラーで失敗します。

回避方法:

既知の回避方法を実行するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を `/etc/nbosjm/ca-chain.pem` に含めます。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 10.1 の国際化、日本語化、および英語以外のローケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、テーブルスペース名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、テーブルスペース名
- SAP:
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:

ボルトストア、パーティション、データ

- **VMware:**
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 10.1 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.30 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 10.1 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにブッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、バイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、

n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 10.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、Veritas SORT (Services and Operational Readiness Tools) Web サイトおよび NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストで確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.50 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

p.42 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

NetBackup 10.1 のバイナリサイズ

表 B-1 に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 10.1 プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサイズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: は、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトまたはを参照してください。

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER	1471 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64	1394 MB		
CentOS	x86-64	1394 MB	6756 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	1394 MB		
Oracle Linux	x86-64	1394 MB	6756 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER	309 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1366 MB	6559 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	1085 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		1394 MB		
Solaris	SPARC	1168 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1163 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER	311 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1039 MB	5327 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	1039 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	521 MB	3737 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表 B-1 にリストされている合計バイナリサイズの 40～50% になります。

- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表 B-1 にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの 15～20% です。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序をプライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.42 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

■ 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.42 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 10.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 10.1 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。
